広告

人生応援メッセージ

人生を楽に生きるためのメッセージを箸蔵寺のご住職に伺いました。

企画・制作／徳島新聞社営業局

筆者ご紹介

真言宗御室派別格本山
箸蔵寺 第六十四世住職
佐藤 盛仁（さとう せいにん）氏

【略歴】北海道大学経済学部経済学科卒業・総本山仁和寺内仁和密教学院卒業。高野山大学院修士課程密教学科修了。箸蔵寺に入山の後、徳島県教育委員会の委員、委員長を歴任。他にも多数のキャリア教育関連の講演実績があります。

・箸蔵寺公式サイト http://www.hashikura.or.jp/
・ブログ「法爾自然」 http://www.hashikura.or.jp/blog/

私は真言宗の僧侶ですので檀家さんのお家に法事に行きます。法事の後には法話をしますが、その一つにご先祖様を敬うという話があります。

ご先祖様と皆さんは血が繋がっています。皆さんはお父さんとお母さんから生まれ、そのご両親も、おじいさん、おばあさんから生まれています。このようにさかのぼっていくと、過去のご先祖様の誰か一人が欠けても皆さんは存在しないのです。ですから、今の皆さんに命を繋いできたご先祖様に感謝の気持ちを持ちましょう。

というお話です。しかし、その話を、心の中では「私はそうではないんだけど」という思いで聞いておられる方がいます。それは、その家に新しく嫁いでこられたお嫁さんです。なぜなら、今拝んでいるご先祖様とは血が繋がっていないのですから。すでにお子さんがいらっしゃる場合でも「この子は血が繋がっているけど私は関係ない」といった疎外感が感じられることもあります。そのような雰囲気を感じた時、私は次のような話を付け加えます。

今、お話ししたのは、ご先祖を「縦」のつながりで見た場合です。それでは次に、これを「横」のつながりで見るとどうでしょう。ご両親は、もともと赤の他人です。もう一世代さかのぼると、ご両親のご両親、つまり四人のおじいさんおばあさん達は、やはり赤の他人同士です。そのまた上の世代のひいおじいさん、ひいおばあさん達八人も、当時は赤の他人で、八人のうちの何人かは、もしかしたら生きている間に一度も顔を合わせていないかもしれません。そんな赤の他人が不思議な縁で結ばれ、いのちのバトンを渡し続けたことによって、今の皆さんに繋がっているんですよ。

といった内容です。親兄弟、親戚は血を分けた間柄だから大切にしなければいけないということはもちろんのことです。しかし、忘れてはならないのは、血縁とは自分の努力ではなく、過去の誰かによってプレゼントしてもらった絆だということです。「兄弟は他人の始まり」という言葉からも分かるように、兄弟の子供はいとこ、その子供は又いとこ、というように、どんどんと離れた関係になっていきます。そんな私たちが、最も近い「親子」という絆を生み出していくためには、自分自身が新しい縁を結んでいくしかなく、その新しい絆は、自らが生み出すものです。ですから、大切なことは**「過去の縁に感謝し、現在の縁を大切に生きていくことにより、未来の縁が作られていく」**ということなのです。

私が法事でお会いした方々以外にも、嫁ぎ先で同じような気持ちを持っておられる方は、まだまだいらっしゃるかと思います。そういう方々に対しても、僧侶として、**「貴方だけではなく、ご先祖様の全ては、元は赤の他人同士から始まったご縁です。貴方が感謝されるのは、過去からではなく、貴方が一生懸命育て、命を繋いでいく未来のお子さんやお孫さん、そして、貴方がこれから関わっていく方々からです。貴方がいることがこれからの家族の始まりなんですよ」**ということを伝え続けることができれば、と思っています。

皆さまのご感想をお待ちしています！

この紙面に対する感想や取り上げてほしい内容などがありましたら、お気軽にお寄せください。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、〒770-8572徳島新聞社営業局営業部「人生応援メッセージ」係までお送りください。

※お送りいただいた方の個人情報は、当社で厳重に管理し、ご本人の同意なしに第三者に開示、提供することはありません。